

社団法人日本知財学会 第8回年次学術研究発表会  
古川官房副長官メッセージ

社団法人日本知財学会第8回年次学術研究発表会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。本来、私自身がお伺いしてご挨拶申し上げたかったところ、予定がつかずメッセージの形になりましたことを、まずお詫びいたします。

今回のテーマは、「日本経済の『再』成長：知財が担う新たな役割」と伺っております。日本が如何に成長するか。これは我が国にとって最大の課題の一つです。菅政権は、この問題意識の下、「強い経済」「強い財政」「強い社会保障」を一体的に実現することを目標に掲げ、昨日、「新成長戦略」を決定いたしました。環境・エネルギー分野のグリーン・イノベーション、医療・介護分野のライフ・イノベーション、そしてアジア、観光・地域を今後の成長分野に据え、2020年まで平均で名目3%、実質2%を上回る成長を目指してまいります。

日本は、研究開発や技術への取組は世界のトップレベルにありますが、この高い潜在力を国際競争力に結びつけ、そして国民生活を豊かにする社会に変革させるためのイノベーションへの取組は十分とは言えません。これを解決する鍵が知的財産です。新成長戦略にも、重要施策の一つとして「知的財産・国際標準化」を盛り込みました。

本年5月に策定した「知的財産推進計画2010」もこの一環です。「先端医療」、「水」、「次世代自動車」など7つの特定戦略分野における国際標準の獲得を通じた競争力強化を進めてまいります。また、知的財産・国際標準化政策を、科学技術政策、情報通信技術政策と密接に連携させてイノベーションの実現を進めるべく、政府の推進体制についても検討してまいります。

こうした政府の取組に加え、企業、大学、法曹界など、民間の様々なセクターにおける知財戦略への取組が相まって、日本の『再』成長のための推進力が生まれていくと信じております。そうした意味で、分野を超えた知財関係者が集う日本知財学会の果たす役割は極めて重要です。

特に、この研究発表会では、悲観論ではなく、日本経済の新たな成長パラダイム、明るい未来のグランドデザインについて議論されるということで、大変期待しております。様々な分野の知財関係者の英知が結集され、新たな日本の成長が実行される第一歩となることを願っております。

最後に、日本知財学会のますますのご発展と、皆様方のご健勝を祈念申し上げます。